

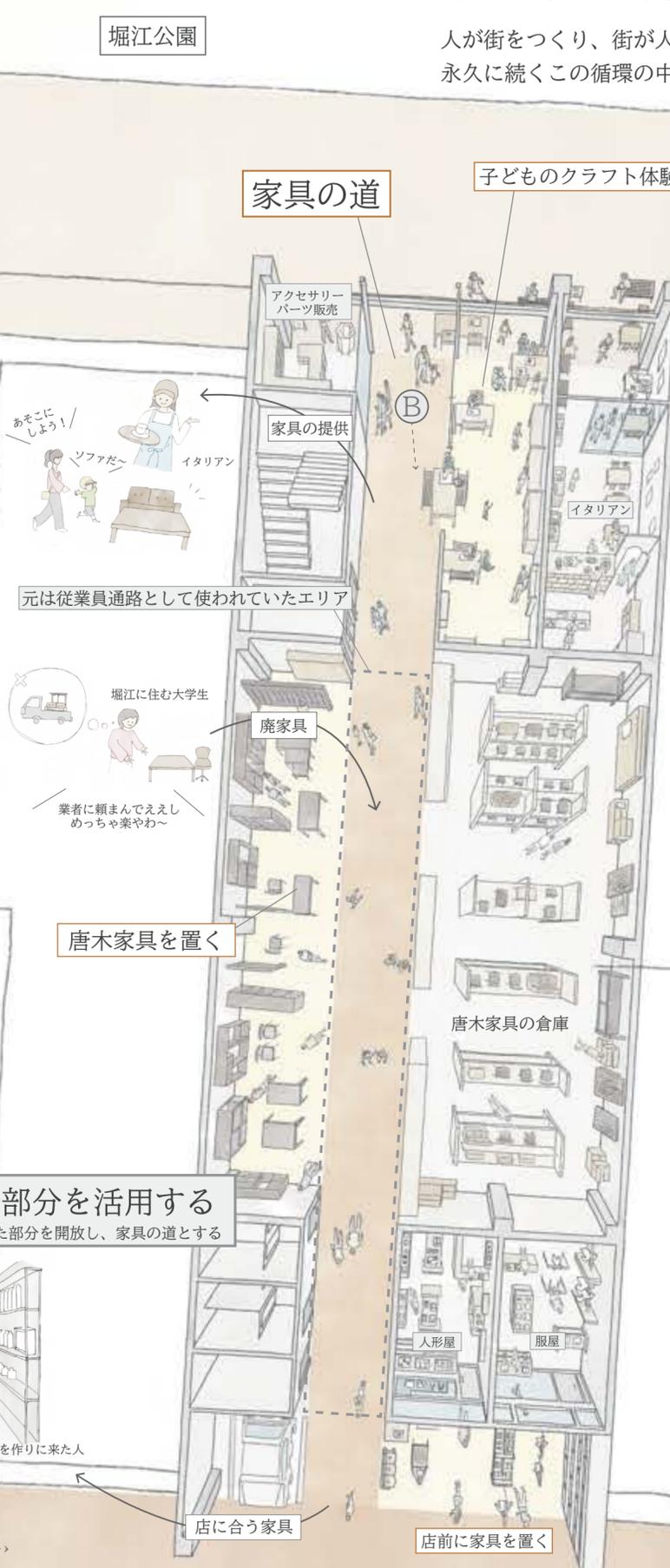
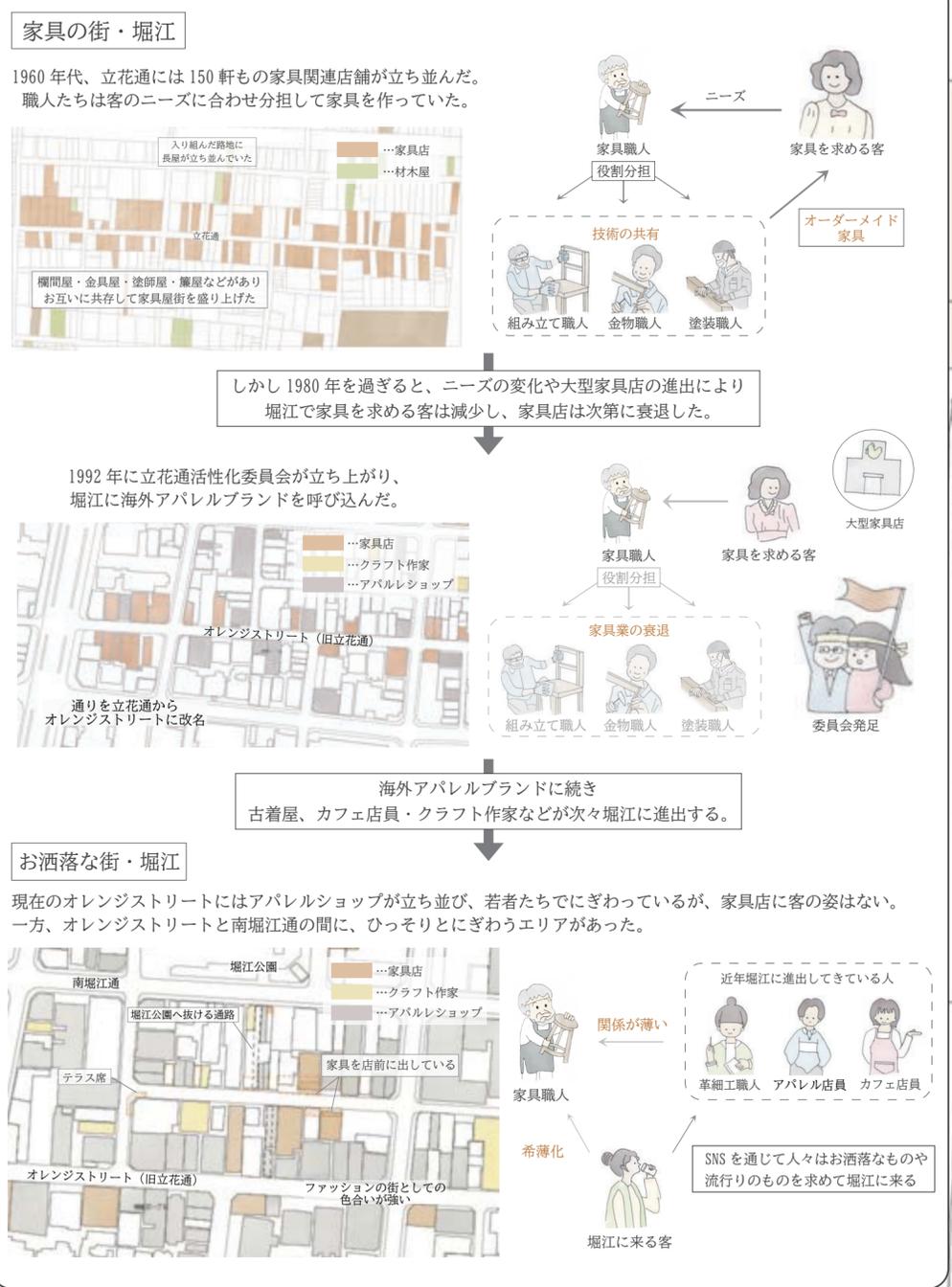
家具の道から - 共に受け継ぐ技術の街 -

大阪市西区堀江。

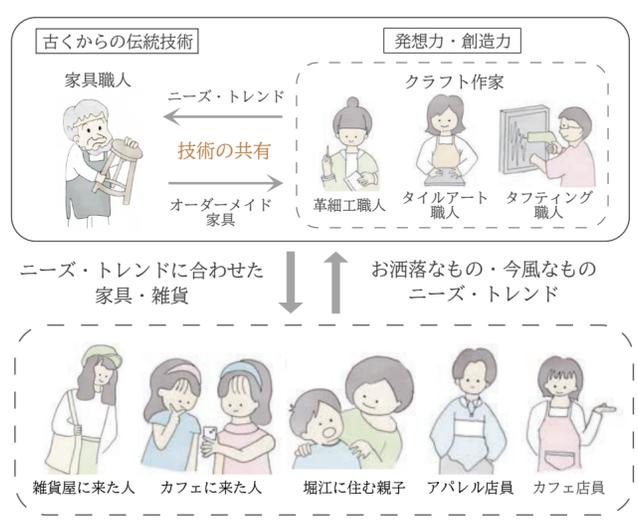
家具の街・堀江と呼ばれた時代から今日まで、堀江の人や街は絶えず変化している。本提案では、堀江の人々の仕組みと街の仕組みに注目し、時を超えて「技術を共有する commons」を再構築する。通り抜け土間を骨格とし、中庭を中央部に設けた伝統的な町家の形式と中庭の上部に天窗を設けた現代建築の要素も取り入れる。内部は関西間のモジュールに合わせた柱・梁の構成となっており、内法寸法が統一されている。また可変性に富んだ家具の特性を生かし、祝日や地域のイベントと連携して空間が変化する、「家具も一体となった内部構成」になっている。

人が街をつくり、街が人を育てる。
永久に続くこの循環の中で、人も街も進化を繰り返し、堀江の文化が生まれる。

1. 現状



2. 提案



01. 堀江の仕組みを再構築する

堀江が「家具の街」と呼ばれた時代、家具職人と人々の間に存在した「オーダーメイド」の関係と家具職人たちが「技術の共有」によって家具を作っていたという堀江の仕組みを家具職人とクラフト作家の間に再構築する。

クラフト作家たちが家具にも流行りやデザイン性を求めることによって古くからの家具職人たちもトレンドや今のニーズに見合った家具を作り始める。

02. 堀江の街を再構築する

かつてのメインストリートが若手の街として栄えている今、北に一筋目にある依然として職人の佇まいが残る道からメインストリートへ家具の道を介して「昔と今」を繋げていく。

計画敷地は廃家具の流通拠点として、堀江や全国から廃家具が集まり、家具職人たちが廃家具を修理・リメイクする工房やクラフト作家との共有の工房がある。古くからの伝統技術と現代技術が融合し、「技術の街・堀江」を生み出す原動力となる。



堀江公園から来る子どもたちの体験の場

店に合う家具

店前に家具を置く

